

1. 趣旨

慶應先端研の研究成果等を活用した地域貢献方策を検討するため、専門的立場または県内状況に熟知している外部有識者による検討を実施。

2. 検討委員

- 赤塚 孝雄 (山形県立産業技術短期大学校長)
- 加藤 丈夫 (山形大学医学部教授)
- 藤井 弘志 (山形大学農学部教授)
- 松田 企一 (日東ベスト株式会社 研究部 部長)

3. 検討結果

慶應先端研のこれまでの研究成果、研究拠点活動と地域の受け皿の状況から、今後5年から10年で実現可能な以下のような共同研究、教育活動を実施することにより地域活性化に貢献することができる。

(1) 共同研究

①医療分野(山形大学医学部との共同研究)

- ・がん、心血管疾患、パーキンソン病などのバイオマーカー探索と臨床検査キット開発など次世代健康診断を目的とした共同研究

②農業分野(山形大学農学部、県農業総合研究センター等との共同研究)

- ・地域農産物の食味評価と機能性成分探索
- ・病害、高温、乾燥などのストレスに強い農作物の選抜技術の開発
- ・生物農薬として利用可能な植物の探索と成長阻害物質の特定

③食品分野(山形大学農学部、県内食品製造企業等との共同研究)

- ・都市エリア事業の継続的な取組み
- ・県内農作物などの保存方法から加工まで、メタボローム解析によるトータルな品質管理技術の確立

④環境分野(県内企業等との共同研究)

- ・オイル産生微生物の試験プラントの実施

(2) 教育分野等

①県内高校生を対象としたバイオカレッジの継続的開催

②全国の高校生によるバイオコンテストの開催

③県内教職員を対象としたバイオ研修会の実施

④ライフサイエンス市民講座の継続及び県内各地での開催

⑤世界的著名研究者の講演会等の開催

⑥県内企業等に対する慶應先端研見学会の開催

4. 実現するうえでの課題

- ・先端研と共同研究機関とのコーディネート機能を強化するため、慶大研究推進センター分室整備など先端研の推進体制強化の必要性
- ・地域側での受け皿の中核となる管理法人機能の必要性